

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2442 号

尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎における重症度予測スコア

(Making of the disease severity prediction index for acute pyelonephritis associated with urinary obstruction due to ureteral calculi)

今泉 健太郎 (いまいずみ けんたろう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎における重症度を予測するためのスコアを作成し、その有用性について明らかにした臨床的に意義ある論文である。

尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎は、抗菌薬の投与だけではショックや DIC に進行し危険な状態に陥ることがあり、その重症度を予測することは重要である。本論文では、2001 年から 2013 年に来院した 134 症例をレトロスペクティブに検討した。本検討では、2003 年の敗血症性ショックの定義を参考とし、受診時または入院後 24 時間以内に、収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧が通常より 40mmHg 以上低下した症例を重症症例と定義した。単変量解析にて心拍数、Cr 値、血小板数、年齢、PS (Performance status)、CRP の 6 項目において統計学的有意差 ($p < 0.05$) を認めた。有意差を認めた 6 項目を説明変数とし、重症度予測を目的変数とする多重ロジスティック解析を行い、それぞれの因子の重症度予測への寄与度を求めた。

多重ロジスティック回帰分析にて Cr、血小板数、PS、CRP の 4 項目で統計学的有意差を認め ($p < 0.05$)、そこから重症度予測スコアを導いた。Cr 値および血小板数については 2 点、PS および CRP については 1 点のスコアであった。血小板の低下、腎機能の悪化が重症度予測への影響が高かった。重症度予測スコア 4 点以上の症例の重症度予測への感度は 73.8%、特異度は 82.6% だった。また、ROC 解析を施行したところ、AUC 0.807 と予測能は Moderate accuracy であり高い確率で重症度を予測できることが示唆された。簡便な臨床的パラメーターを用いるこの計算式は、救急外来などにおける有用性が示唆された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。